

ゆみのハートクリニック

作田 佳純（さくた かすみ）さん

淑徳大学卒業

医療ソーシャルワーカー歴 5 年（2024 年現在）

千葉県出身



1. 医療ソーシャルワーカーを目指した“きっかけ”は何ですか

中学生の時に、今度のことを考える時期があり、仕事は人生の中で一番長い時間を過ごすことなので、「人のために仕事をしたい」と思い、漠然と「福祉」ということをイメージしていました。

高校生の時に、福祉の道をと進路を考えていた時に、新聞記事で、偶然、医療ソーシャルワーカーを紹介する記事を発見し「退院をしたいけれども、様々な事情で退院できない」そのようなときに支援する仕事として、興味を持ち、具体的に医療ソーシャルワーカーを志すことになりました。

2. 医療ソーシャルワーカーの仕事をしてみていかがですか

大学時代の実習も医療機関で医療ソーシャルワーカーの実習を行いました。

大学の先生からは「医療ソーシャルワーカーは大変だよ」と言われたことがあります。実際に変な仕事ではあると思いますが、対人援助職として、人と関わり、その人の生活と時として命にかかわる仕事ですので、緊張感を持って取り組んでいます。

3. 医療ソーシャルワーカーの仕事をしてみて“やりがい”は何ですか

以前、病院で医療ソーシャルワーカーとして働いていた時は、退院日に「やっと帰れる」という笑顔や雰囲気を感じることで“やりがい”でした。

現在は在宅医療の医療ソーシャルワーカーとして、在宅生活を支えることで、患者様、御家族と関わりが長いです。本人にとって最善の生活に向けてどうしたらよいか、患者様を中心に、医師、看護師、介護支援専門員などと1つのチームで取り組んでいることやその時間に“やりがい”を感じています。

4. 今後について

課題は日々感じています。制度に関する知識、関係者とのかかわり、特にコミュニケーション能力を高めたいと思っています。専門職1人1人に合わせた関わりとして。

以前は医療ソーシャルワーカーとして、意見を出しにくいこともありましたが、周りのサポートもあり、今は専門職として様々な提案ができるようになってきました。

5. 学生に向けてのメッセージ

私が医療ソーシャルワーカーを志した“きっかけ”である「帰りたくても帰れない人がいる」というところに支援できるように、そして、今は在宅医療の医療ソーシャルワーカーとして、その方の生活に入り、一緒に悩みながら、その方の人生に寄り添わせていただいている、様々な人生のイベントに関わらせて頂いている、その時間に、医療ソーシャルワーカーを志してよかった、仕事は楽しい、と感じられています。

ぜひ医療ソーシャルワーカーを目指す人が増えてほしいです。